



# 風の子

糸魚川市立木浦小学校

学校だより No.20

令和3年2月9日



## 「福は内」「鬼も内？」

124年ぶりに節分になった2月2日、木浦小学校でも豆まきを行いました。学校では自分の行動で改善したいことや苦手なことを「心の鬼」と表現して、追い出そうという行事になっています。全員がそれをお面にして、豆まきの前に発表しました。

いつの時代にもいそうな「朝寝坊鬼」や多くの子供がなってしまうような「ゲームやめられない鬼」、ユニークな「じっとしてられない鬼」など、様々な鬼たちが出てきました。けれども、お楽しみ要素が強い豆まき集会では、その心の鬼があまり切実な問題に感じられないところがほほえましく思います。一人ひとりが長所もあれば短所もあり、それが個々の人格となっています。子供たちは自分の短所をよく分かっているので、それを心の片隅に置いておき、忘れないことが大切なのでしょう。

壇上から丑年生まれの3人が、「鬼は外、福は内」と豆やお菓子をまきました。ところで、木浦地区には鬼伝説から「鬼伏」と「鬼舞」の地名が残っています。鬼とも仲良くしたことから、「鬼も内」と唱えても、この地域らしいのではないかと思います。

## 新記録を目指して 縄跳び大会



2月2日は、縄跳び大会もしました。3学期になってから、体育の時間や火曜と木曜の業間（2限後の休み時間）に練習してきた成果を前半は個人の短縄で、後半は全校による長縄で発表しました。

1・2年生は前回し跳び・駆け足跳び・あや跳びなど、3・4年生はサイドクロスや二重あや跳びなど、5・6年生は主に二重跳びで、1分間に跳んだ回数で自己記録を目指しました。

長縄は、昨年まで縦割り班でのチーム対抗戦でしたが、児童数が12人に減ったので、1年生から6年生までの全校で、3分間に跳んだ合計回数を数えました。慣れて上手になると回転する縄の中に走り込み、片足で踏み切ってその足で着地し、スピードを落とさずに通過できます。ところが低学年の子供は、勢いよく走り込んでも、両足ジャンプと両足着地になるため動きが一旦止まり、出るときに縄が足に掛かることがあります。

こうした子供たちが混じって跳ぶため、縄を速く一定のリズムで回せず、記録がなかなか伸びません。当日の目標は、これまで達成したことがない130回。子供たちの目は真剣、心を一つに頑張ろうと士気も高まります。低学年の子供たちは、引っ掛かってはいけないとそれこそ必死の形相です。

結果は、1回目、139回で見事に目標達成。大きな歓声が上がりました。2回目は更に記録を伸ばし144回。誇れるほどの回数ではありませんが、1から6年生が個人差を認め合い一丸となった結果として、達成感を味わうことができました。

## 残念なことが続きました

### ■フクロウがいなくなりました

煙突の穴からいやしを与えてくれていたフクロウが、1月26日以来、姿を見せなくなってしまいました。恋の季節らしいので、きっと、よいお相手が見つかって引っ越したのだと思います。そう思っても、いなくなるとやっぱりさみしいです。

### ■スキー教室中止

1月31日、スキー教室が暴風雪のため中止となってしまいました。

### ■サケの稚魚、ほぼ全滅

2月8日朝、木浦川に戻ってきたサケの命をつなぎ、大切に育ててきたサケの稚魚が3匹を残してほぼ全滅。山から水を引いていた管が駐車場脇の雪の下で外れており、週末の間に水槽の水がサイフォンの原理で逆流し、抜けてしまったのです。

「福を招く」というフクロウがいなくなったためか、残念なことが続いてしまいました。負の連鎖を確実に断ち切り、みんなの力で「笑顔あふれる学校」にします。



絵手紙講師が描いてくれたフクロウ